

## 事例2

菅原 佳代 さん  
(仮称・75歳)  
のケース

# 「いつまでも元気に 暮らしていくために…」

### 現在の生活

菅原佳代さん(仮称・75歳)は、夫の由紀雄さん(仮称・78歳)と2人で暮らしています。現在、佳代さんは2年前、脳梗塞により左上下肢に軽い麻痺があり、介護保険制度の要介護4と認定され、由紀雄さんの介護により生活しています。

現在はデイサービスとホームヘルプサービスを週2回づつ利用しており、入浴や家事援助のサービスを受けています。

由紀雄さんは家事等を行うことで自分の介護予防にもなっているため、現在のサービスで調度良いと言いますし、1週間交替で遠方より娘と息子が週末に訪れ介護者を休ませている状況ですが、日常生活において家事(洗濯・掃除・買い物等)を担っている他に、夜間の車椅子でのトイレ介助や日中の杖を利用した歩行の見守り、トイレ介助をしており、由紀雄さんも高齢のため身体的に休養が必要な状況だとも思われます。

また、以前に佳代さんがトイレに行く途中転倒し、頭部を打撲しているため、再度転倒を繰り返さないよう心理的に緊張している状態が続いており、安心して生活できる住宅改修も検討しています。

以上の状況をふまえ、出前介護講座の講師と在宅介護支援センター職員、社会福祉協議会職員でご自宅に訪問してお話を伺い、状況を確認しました。

### 現在の状況

調子の良いときはベッドから起き上がり、車イスへ一人で乗り移ることができますが、昨年、調子の良いときに一人で歩行訓練をしていた際に転倒したことや、居室内で由紀雄さんと転倒したこともあり、その後は車イスだけになっている状況である。

手すりがあれば転倒の危険も減少し、介護の負担が少しでも軽減される等、色々な部分で住宅改修や福祉用具購入を考えているようですが、サービスを利用することに対し非常に遠慮があるようです。

また、デイサービスやホームヘルパーの利用においても同様であり要望等が少なく、ニーズなどが読み取りにくい状況です。

夜間の排泄についてはポータブルトイレがベッド横に設置しているものの使用しておらず、夜間はトイレまで由紀雄さんが介助しています。

# ー現在の問題と課題と支援のポイントー

## 1 住宅における転倒の危険性と住環境整備の必要性。

**ポイント：**手すりを設置したり、段差を解消する等、住環境が整備されれば転倒の危険性が少なくなります。身体状況、住環境をしっかりと把握し、福祉用具の購入や住宅改修を行うことが必要です。特に、転倒や介護の負担の大きい歩行介助やトイレ介助において、本人や介護者の負担とならないような住環境整備をすることが必要です。また、危険を伴う夜間のトイレ介助については、ポータブルトイレの使用と必要性について理解をいただくことも必要です。

## 2 運動機能低下と本人の心理的ストレスの可能性。

**ポイント：**本人の機能を把握し、生活の中で機能低下防止の方策を考慮し、残存機能を確保しながら、本人の心理的ストレスの減少を図ることが必要です。

## 3 高齢の夫の介護負担の軽減。

**ポイント：**本人の機能に即した介助方法やサービス利用のアドバイスを勧めましょう。特にトイレ介助の軽減にむけ、しっかりと相談していくことが大切です。



## 今後の支援のポイントについて

本人が動けるようになりたいという気持ちはあっても、実際はなかなか離床してられず、寝ている時間が多くなっているようです。

病気により依存心が強くなっていますので、関係者からの励ましにより、離床やリハビリを継続させていていただきたいと考えます。

デイサービス利用時の機能訓練的リハビリ（手すりにつかまって立つなど）は、由紀雄さんの負担とならないようであれば、一緒に行っていただき、ホームヘルプサービスにおいては、本人が興味をもつことを探し出し、取り組んでいけるようすすめる方向でいくのも一法と考えます。

ホームヘルパーさんと一緒に料理（一品でも）をしてみるなどもいいかもしれません。そうすることで、家事への意欲がわくことも考えられますし、それが一番のリハビリとなる可能性もあります。

また、デイサービスのみでなく、着替えをして気分転換に散歩（車椅子でも）に出るのも良いと思います。

どのようなことでも良いので、何か活動性があがること（楽しみに思えること）を見つけられると良いと考えます。

そうした中で心身機能を維持していただきたいと考えます。